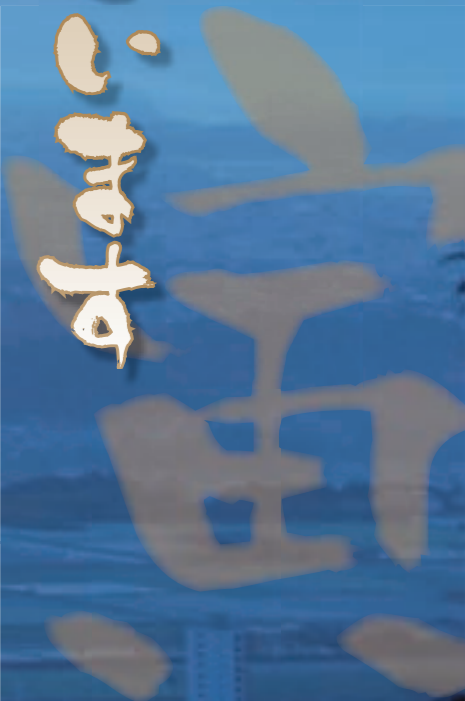


あけましておめでとう

おめでたきとせふんじんかた



新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、輝かしい新春をご家族おそろいで健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の鹿屋市は、世界同時不況のあおりにより、地場企業の倒産や雇用環境の悪化などの大きな影響を受けました。

このようなこれまでになく厳しい状況に対応するため、建設工事の前倒し等による地元産業への対策や企業等の離職者を対象とした緊急雇用対策など、国の緊急経済対策等に呼応しながら市民の皆様の安全・安心な暮らしを守っていく施策等を講じたところでございます。

このような中で、市政運

界大会であるワールドゲームズで、鹿屋市在住の浅井未来選手が水上スポーツのウエイクボード女子の部で銅メダルを獲得するという快挙を達成したことは、市民の皆様にも勇気と感動を与えたとともに、「健康・交流都市 かのや」を広く内外に発信しました。

また、担い手の育成・確保をはじめとする農業生産体制の強化など、強い産業構造の構築と雇用の創出を進めるとともに、九州新幹線の全線開業効果を地域に導入するための鹿児島中央駅～鹿屋間の直行バスの運行開始など、交流人口の増加促進による地域活性化に向けた取組に加えて、救急医療体制等の充実・確保による安全・安心な生活の確保など、大隅定住自立圏の形成に向けた取組を推進してまいりました。

さらには、町内会やボランティア団体、NPO等が、

営の羅針盤である鹿屋市総合計画の将来都市像“ひと・まち・産業が躍動する「健康・交流都市 かのや」”の実現に向けて、市民の皆様との協働のもと、地域の資源、特性を生かした地域経済の活性化と、安全で安心に暮らせるまちづくりを推進してまいりました。

具体的には、国内では46年ぶりとなる皆既日食に併せて「輝北天体フェスタ2009 inかのや」を開催したことや、「かのやばら祭り2009秋」の開催期間中に県内外でも有数の観光施設として定着した「かのやばら園」が平成18年のグランドオープン以来、入園者50万人を突破したことのほか、オリンピック競技に採用されていない種目の世

地域における福祉活動や人づくりなど、様々な分野で活動を主体的に行う「共生・協働を進めるまちづくり」に向けた取組を推進してまいりました。

このように、非常に厳しい社会経済情勢の中にあつて、市政を停滞することなく運営ができましたことは、市民の皆様のご温かいご支援ご協力のおかげでございます。また、制度創設2年目を迎えた「ふるさと納税制度」においては、多くの郷土出身者の皆様から、ふるさと鹿屋を想う気持ちを寄附という形でお寄せいただいたところであり、心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

結びに、新しい年が、市民の皆様にとつて輝かしい飛躍の年になりますよう心から祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

鹿屋市長 山下 栄

岡元林道から見た日の出と鹿屋市街地